

**2023年8月30日(水)****本部企画シンポジウム**

16:45 ~ 18:15 | 寒梅館ホール 寒梅館 1 F・地下 1 階ハーディーホール

**本部企画シンポジウム 1 / 「知徳体を育む」 体育・スポーツ**

コーディネーター：岡出 美則（日本体育大学）

[本部企画-S1-1] スポーツの価値に基づく教育の推進にむけたスポーツ界の取り組み

JADAの取り組みを例に

\*山本 真由美<sup>1</sup> (1. 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)

[本部企画-S1-2] OECD未来の教育スキル2030プロジェクト国際比較カリキュラム分析から見る示唆

体育の価値付けと今後の方向性

\*田熊 美保<sup>1</sup> (1. OECD教育・スキル局シニア政策アナリスト)

**本部企画シンポジウム**

■ 2023年8月30日(水) 16:45～18:15 | ❶ 寒梅館ホール 寒梅館 1 F・地下 1 階ハーディーホール

**本部企画シンポジウム 1 / 「知徳体を育む」体育・スポーツ**

コーディネーター：岡出 美則（日本体育大学）

1999年に開催された第1回世界体育サミットを契機に、体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPSE)では体育、スポーツの価値を高める論義が活性化していく。良質の体育やフィジカルリテラシー、汚職防止やアンチ・ドーピング推進の試みは、スポーツの価値を基盤とし、スポーツを社会的課題の解決に向けた効果的なツールとして機能させる可能性を追求する試みといえる。

他方で、OCEDは、Education 2030（2018）に関連し、他教科に先駆け、体育のカリキュラム分析の結果を公表している（OECD,2019）。

このような一連の動きは、体育、スポーツの将来をスポーツの価値を踏まえて多くの関係者や論義していく必要性を示唆している。

そこで、本シンポジウムでは、冒頭に八田英二先生（学校法人同志社 総長・理事長）による基調講演の後に、JADAにおいて「2021Code/教育に関する国際基準の履行に向けた戦略計画」作成に関わってこられた山本真由美氏並びにOECDにおいてEducation 2030作成に係られた田熊美保氏にシンポジストとして御登壇いただき、体育並びにスポーツの将来に関わるスポーツ界並びに教育界の情報共有を図るとともに、その将来について論義することとした。

なお、本シンポジウムは、日本OECD共同研究(東京学芸大学事務局)との共同研究としても実施される。

**[本部企画-S1-1] スポーツの価値に基づく教育の推進にむけたスポーツ界の取り組み**

JADAの取り組みを例に

\*山本 真由美<sup>1</sup> (1. 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)

**[本部企画-S1-2] OECD未来の教育スキル2030プロジェクト国際比較カリキュラム分析から見る示唆**

体育の価値付けと今後の方向性

\*田熊 美保<sup>1</sup> (1. OECD教育・スキル局シニア政策アナリスト)

## 本部企画シンポジウム

### 本部企画シンポジウム 1 / 「知徳体を育む」体育・スポーツ

コーディネーター：岡出 美則（日本体育大学）

2023年8月30日(水) 16:45 ～ 18:15 寒梅館ホール (寒梅館 1 F・地下 1 階ハーディーホール)

1999年に開催された第1回世界体育サミットを契機に、体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPSE)では体育、スポーツの価値を高める論議が活性化していく。良質の体育やフィジカルリテラシー、汚職防止やアンチ・ドーピング推進の試みは、スポーツの価値を基盤とし、スポーツを社会的課題の解決に向けた効果的なツールとして機能させる可能性を追求する試みといえる。

他方で、OCEDは、Education 2030（2018）に関連し、他教科に先駆け、体育のカリキュラム分析の結果を公表している（OECD,2019）。

このような一連の動きは、体育、スポーツの将来をスポーツの価値を踏まえて多くの関係者や論議していく必要性を示唆している。

そこで、本シンポジウムでは、冒頭に八田英二先生（学校法人同志社 総長・理事長）による基調講演の後に、JADAにおいて「2021Code/教育に関する国際基準の履行に向けた戦略計画」作成に関わってこられた山本真由美氏並びにOECDにおいてEducation 2030作成に係られた田熊美保氏にシンポジストとして御登壇いただき、体育並びにスポーツの将来に関わるスポーツ界並びに教育界の情報共有を図るとともに、その将来について論議することとした。

なお、本シンポジウムは、日本OECD共同研究(東京学芸大学事務局)との共同研究としても実施される。

## [本部企画-S1-1]スポーツの価値に基づく教育の推進にむけたスポーツ界の取り組み

JADAの取り組みを例に

\*山本 真由美<sup>1</sup> (1. 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)

<演者略歴>

世界アンチ・ドーピング機構 (WADA) Standards & Harmonization マネージャーを経て、現在（公財）日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) 教育部部長。WADA教育専門委員会委員。「教育に関する国際基準 (International Standard for Education: ISE)」及びISEガイドライン策定の委員を務める。英国ラフバラ大学 (Loughborough University) にて政策マネジメント博士号取得。

本発表では、全世界・全スポーツの統一のルールである「世界アンチ・ドーピング規程（以下、Code）」及びCodeに付随し義務事項である8つの国際基準における「教育に関する国際基準 (International Standard for Education: ISE)」の国際的なルールを基にする。本発表では、主として以下を紹介する。

- 1)2021年版 Code (以下、2021Code)及びISEの目的と概略
- 2)2021Code/ISEに準拠した日本での体制づくり
- 3)価値を基盤とした教育推進のねらい、今後の展望

2003年版 Codeが2004年アテネ・オリンピック直前に施行されてから、Codeはグローバルなスポーツやアンチ・ドーピング規則違反の状況等を鑑み、3回の改訂がされている。2003Codeから教育に関しては世界規程内に提示され、その重要性はアンチ・ドーピング機構（Anti-Doping Organization: ADO）が認識し実施してきたが、国際基準は存在しなかったことで、共通見解を得ることができなかった。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が2007年2月1日に「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約 (International Convention against Doping in Sport)」を発効し、Codeにおける政府の位置づけ、教育や研修に関する締約国の役割等を明確にした。

2021年1月に施行したISEでは、「教育 (Education)」を定義すると共に、ISEにおける固有の定義を明示、660以上のCodeの署名当事者（国際オリンピック委員会、国際競技連盟等含む）が共通の言語で教育を推進し、準拠すべき原則を提示した。教育とは、「スポーツの精神を育成し保護する価値観を浸透させ、かかる行為

を発展させ、また、意図的及び意図的ではないドーピングを予防するための、学習の過程をいう」と定義し、価値を基盤とした教育、啓発、情報提供、アンチ・ドーピング教育といった教育の4要素を組み込んだ、教育プログラムを推進することを要請している。日本で2021Code/ISEの施行のため、「スポーツの精神を育成し保護する価値観を浸透させ」るための教育体制・プログラムづくりを紹介し、世界的にクリーンでフェアなスポーツ環境を守り創っていくための、価値を基盤とした教育の今後の方向性を紹介する。

## 本部企画シンポジウム

### 本部企画シンポジウム 1 / 「知徳体を育む」体育・スポーツ

コーディネーター：岡出 美則（日本体育大学）

2023年8月30日(水) 16:45 ～ 18:15 寒梅館ホール (寒梅館 1 F・地下 1 階ハーディーホール)

1999年に開催された第1回世界体育サミットを契機に、体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPSE)では体育、スポーツの価値を高める論義が活性化していく。良質の体育やフィジカルリテラシー、汚職防止やアンチ・ドーピング推進の試みは、スポーツの価値を基盤とし、スポーツを社会的課題の解決に向けた効果的なツールとして機能させる可能性を追求する試みといえる。

他方で、OECDは、Education 2030（2018）に関連し、他教科に先駆け、体育のカリキュラム分析の結果を公表している（OECD,2019）。

このような一連の動きは、体育、スポーツの将来をスポーツの価値を踏まえて多くの関係者や論議していく必要性を示唆している。

そこで、本シンポジウムでは、冒頭に八田英二先生（学校法人同志社 総長・理事長）による基調講演の後に、JADAにおいて「2021Code/教育に関する国際基準の履行に向けた戦略計画」作成に関わってこられた山本真由美氏並びにOECDにおいてEducation 2030作成に係られた田熊美保氏にシンポジストとして御登壇いただき、体育並びにスポーツの将来に関わるスポーツ界並びに教育界の情報共有を図るとともに、その将来について論議することとした。

なお、本シンポジウムは、日本OECD共同研究(東京学芸大学事務局)との共同研究としても実施される。

## [本部企画-S1-2]OECD未来の教育スキル2030プロジェクト国際比較カリキュラム分析から見る示唆

体育の価値付けと今後の方向性

\*田熊 美保<sup>1</sup> (1. OECD教育・スキル局シニア政策アナリスト)

<演者略歴>

OECD教育スキル局シニア政策アナリスト。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）教育セクターを経て、経済協力開発機構（OECD）へ。OECD東北スクールの立ち上げや、移民の教育政策レビュー、ノンフォーマル教育評価政策、幼児教育保育政策分析、eラーニング事例研究などに関わる。現在、OECD未来の教育スキル2030プロジェクトマネージャー。

本発表では、① OECD Future of Education and Skills 2030・未来の教育スキル2030プロジェクト（以下、E2030）の大枠、② E2030の一環としてのカリキュラム分析、特に、体育・保健に特化したカリキュラム分析、③コロナ後の新たな国際議論の3点から「体育の価値」と「今後の体育の国際的な潮流」の紹介を目的とする。

OECD教育スキル局では、2015年より、E2030を実施し、新たな未来のビジョン創り（OECDキーコンピテンシーの再定義）と並行して、そのビジョンを教育の中で具現化する一つの政策レバーとして「カリキュラム」を政策分析の中核に添えている。ビジョンとして発表された「OECDラーニングコンパス」の中で、「体育」がどういったコンピテンシーと交差するのか、また、全ての教科を含む相対的な国際カリキュラム分析と並行し、教科に特化したカリキュラム分析として、「体育・保健」と「数学」が合意された。なぜ、「体育・保健」が選出・合意されたのかの国際的な背景にも言及し、18か国参加した分析の内容から、体育教育の国際的な価値付と、今後の方向性を紹介する。また、コロナ禍後、そしてウクライナ侵攻後に、様々な国が「体育（保健を含む）」の再価値付をしている方向性も紹介する。